Robert Bergman

映像に潜むオルガニズム

スタジオで談話を聞き、合間きに犬と戯れ、ミュージシャンたちと談笑する、そんなありふれたレコーディングの風景が、なぜか別世界での出来事のように感じてしまう。いつ、どこで撮影されたものなのか、彼は本当に実在するのか。坂本龍一のビデオ『1919』を観ると、そんな疑問が湧いてくる。

坂本龍一のアートディレクターとして、CDジャケットやホームページのデザインなどを数多く手掛けてきたロバート・バーグマン＝アンガー。ファッション、音楽、AVなどのCFを中心にあくの映像を生み出してきた彼は、今回のビデオ制作が、これまでにない試みだったことを強調する。

「この曲のコンセプトは『過去』だったから、ビデオにもその要素を盛ればいいと思ったんだ。でも、坂本氏は多忙で、ビデオ制作に時間を費やすことは1分たりとも許されなかった。それなら仕事中の彼を、つまり舞台裏の表情を“映像”にしてしまおうと考えた。撮影場所もスタジオ内と限られていたので、70年代のウォーホルのファクトリー・フィルムのようなフィーリングが最適しゃないかと考えたんだ。あの非常に生々しく有機的なものが必要だと。」

『1919』のコンセプトとは対照的に、彼は坂本龍一プロデュースによる中谷美紀のビデオ『STRANGE PARADISE』を実験的なイメージで撮り下ろした。

「坂本氏が考えていたのは、彼女のもつ洗練されたパワフルな美しさと危険な側面を表現することでしたが、それはうまくいったでしょうね。“危険な美しさ”のシンプルなタブローとなったところ。編集では、余分なものをそぎ落とし、フィルムの生々しく有機的な部分に到達させたいね」

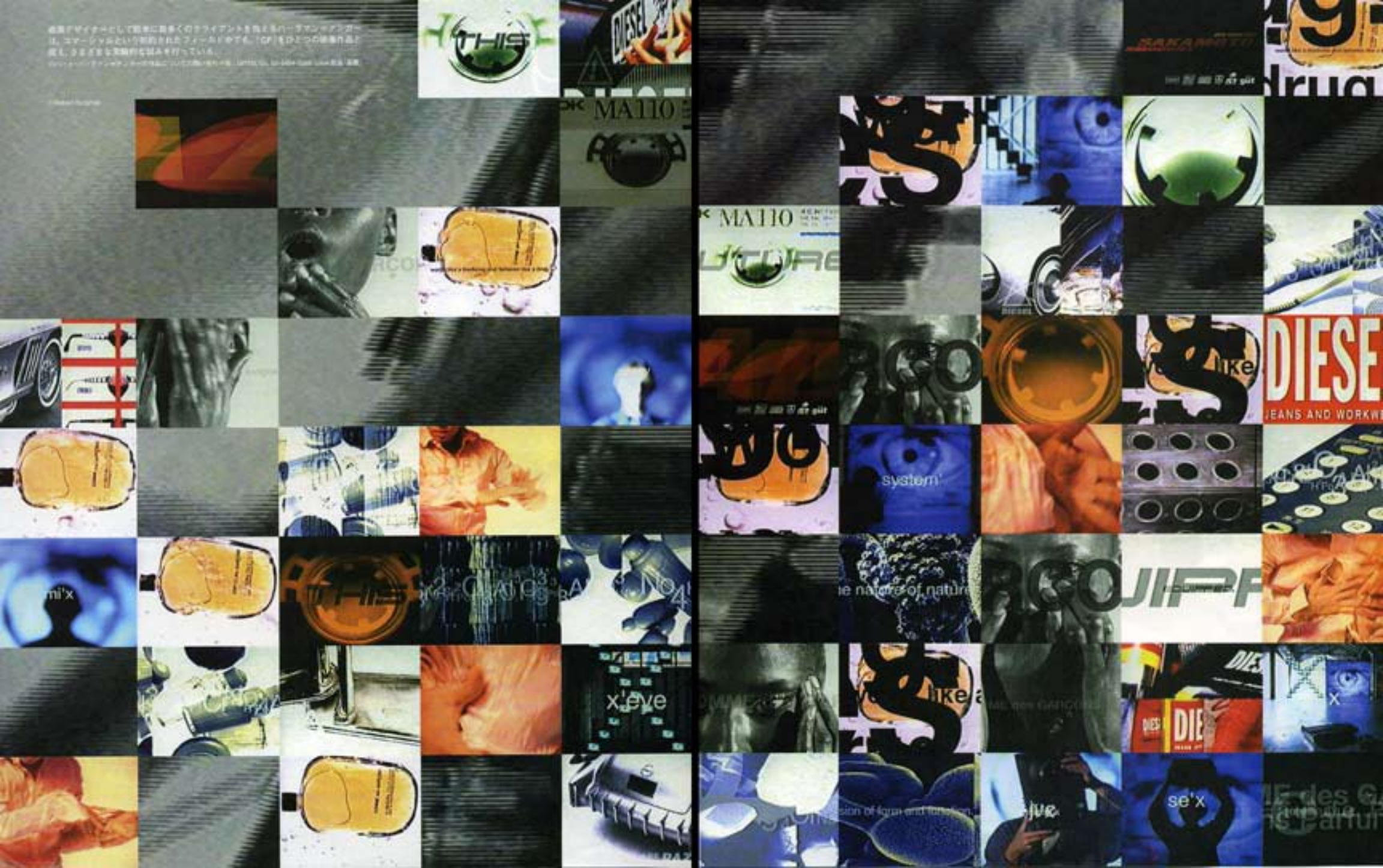
一貫して共通するふたつのビデオのコメントで、彼は同じフレーズを用いた。RAW and ORGANIC。あらゆるものがビットに変換されていく今日、その言葉はノスタルジックな響きさえもつ。そして、そんな彼の創り出す映像は、ノイズレスな音や映像に馴染んでしまった我々の感覚をはとよく刺激させてくれるのだ。

—WIRED

ロバート・バーグマン＝アンガー Robert Bergman-Unger
ミュージシャンを始めに活動するビジュアル・アーティスト。ファッション誌を始めとする数多くのデザイナーとして活躍した人物。ロサンゼルスでのキャリアを積む。ブランド『WIRED』誌のアソシエイト・アートディレクターなどを経て、現在はイギリスのロンドンを拠点にMAP誌の編集長兼アートディレクター、ボルボやポーター・カマリなどの広告、最近ではヨーロッパでは、ディオルソンのイメージビデオを手掛けた。坂本龍一のアートディレクターをつとめている。

坂本龍一『1919』Solo album『1986』
FOR LIFE

中谷美紀『STRANGE PARADISE』
FOR LIFE


THIS
DIESEL
MA110
MA110
DIESE
JEANS AND WORKW
system'
mi'x
x'eve
se'x